

千船駅(阪神本線)

佃漁民ゆかりの地を歩く



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.001

阪神千船駅

①佃

天正14年(1586)、徳川家康が住吉大社から摂津多田神社へ参拝の折りに神崎川の渡船を佃漁民が務めた縁で、家康が江戸幕府を開いたのちにも特別な関係が結ばれました。慶長17年(1612)、将軍家に献魚の役目を命じられ、佃村の庄屋、森孫右衛門と佃・大和田の漁民34名が江戸に入りました。彼らに「江戸近辺の海のどこで漁をしてもよい」という特権が与えられ、さらに日本のどの海でもよいと拡大され、税も免除されました。大坂の佃漁民もこの特権を行使したそうです。江戸に定住した佃漁民たちは、隅田川河口の干拓の許可を得て造成事業を行い、正保元年(1644)に完成させ、その土地にふるさとと同じ佃島と名づけました。今でも大阪と東京の佃島の交流があります。森孫右衛門の墓は、江戸からふるさとへ帰って正行寺(佃1丁目)にあります。

②見市家

15世紀の半ば、寛正年間に紀氏、見市氏、芥川氏など17軒の者が協力してこの地の開発を始めました。土地には大藪といわれる藪の根が四方に延びて、開発は困難を極めました。「佃鋤入の地」の碑があるところは、かつて見



市家の屋敷があったところで、藪床やぶとこと呼ばれ、2000坪の土地に米俵100俵を収納する米蔵があったそうです。いまでも、見市家には古文書や古地図など多くの歴史資料が保存されています。

③左門殿川

元和3年(1617)、たびたびの洪水を防ぐため、尼崎城主・戸田左門氏うしきね鉄が大規模な改修をしました。領民がその名を偲んで川に「左門殿」という名を付けました。

④田蓑神社

住吉の大神を祀る佃の産土神です。このあたりは昭和初期までうっそうとした森に囲まれていました。神社境内には大阪府下で最も古いといわれる狛犬(元禄15年(1702)正月17日)が本殿

垣内にあります。また、家康の没後、寛永8年(1631)、当社に東照宮が祀られました。将軍家との特別な関係がうかがわれます。



⑤神崎川

延暦4年(785)、桓武天皇は和気清麻呂に神崎川と淀川を結ぶ工事を命じました。これにより、京から瀬戸内へ出る航路は神崎川回りが最短コースとなり、平安時代から江戸時代にかけて大いに賑わいました。

阪神千船駅

